

第 57 回 JIA アーバントリップ見学会の報告

実施日：2009年7月23日(水) 晴れ 酷暑

テーマ：「新しい施設を訪ねて～環境、自然、創造、人の交流、使う楽しみ、提案型都市建築」

見学先 1. ふじようちえん (東京都立川市)

説明者 手塚 貴晴氏、藤田 雄介氏、鈴木 宏亮氏 (手塚建築研究所)

園長 加藤 積一氏 (学校法人 みんなのひろば藤幼稚園)

2. 福生市役所 (東京都福生市)

説明者 仲 俊治氏、和田 隆文氏、西田 浩二氏 (山本理顕設計工場)

3. 武蔵工業大学建築学科棟 (東京都世田谷区)

説明者 岩崎 賢一氏 (武蔵工業大学岩崎研究室)

第 57 回コーディネーター 西見 高明 (野生司環境設計)



ふじようちえん屋上 手塚氏から計画説明



ふじようちえん全室が視界にある職員室



福生市役所 第1棟南外観

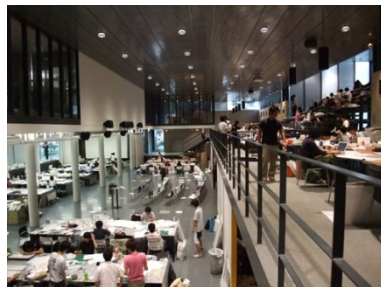
1階レベルから2階屋上庭園へ



福生市役所 1階フォーラム



武蔵工業大学建築学科棟 正面



建築学科棟 吹き抜けデザインステージ

見学後記

今回の見学のテーマは、「新しい施設を訪ねて～環境、自然、創造、人の交流、使う楽しみ、

提案型都市建築～」というものであったが、実行委員会の皆様のご努力により、まさにこのテーマに沿った建築作品が用意されており正鵠を得た見学会となった。

「ふじようちえん」に行ってみず驚いたのは、楕円形の屋根の上を元気よく走りまわる多数の園児達の嬉しそうな表情であった。特別な遊具があるわけでもない無限軌道の楕円平面の中をなぜ園児達は単にぐるぐると走り回るだけでかくも嬉々となるのか、児童心理学の知識のない私にはわからないが、その他の部分を見学した限りでは、造り込み過ぎないことが幼児教育にとっては非常に有益であることが推測できた。建物の中には3本の大きな既存のケヤキが屋上を貫いて残されており、走りまわりながら木登りをしたり、木の周囲の落下防止ネットの中にあえて飛び込んで遊んでいる園児達の楽しそうな姿が極めて印象的であった。

次に訪れた「福生市庁舎」も1階をオープンな市民サービスのための「フォーラム」に使用し、その屋上を「丘の広場」として市民に開放すると同時に、格子状の外壁が印象的な上部建物は、Pcaの柱とT字梁で無柱の大空間を実現している。実際は5階建ての建物が外壁格子により10階建て以上に見えるから面白い。コンペの当選案どおり、公園と庁舎が一体となった提案型都市建築が実現したものであり、今後は煉瓦タイルのツインタワー庁舎として市のランドマークとなるであろうことが容易に想像される興味深い建築であった。

最後に訪れたのが「武蔵工業大学新建築学科棟#4」であるが、この建築も大学校舎の規制概念を根本から問い直した力作であった。建物に入ると突然出現する大空間：吹き抜け上部の院生の製図室と及び「デザインステージ」と名付けられた階段状のスペース、並びに吹き抜け下部の学生の製図室とプレゼンテーションスペースの全てが一体となった「グランドギャラリー」、に驚かされる。当日の説明もこのプレゼンテーションスペースで行われたが、周りで作業中の数百人の院生・学生達は一切お構いなしであった。更に驚かされたのは、研究室群が収納家具をパーティションとして置いただけのオープンな空間として造られていることである。従来の閉鎖的な研究室の概念を覆し、分野の異なる大学での研究環境をここまで構築した設計者の並々ならぬ手腕には脱帽せざるを得ない。以上3つの建築を見学したがいずれ劣らぬ大作であり現在の日本の建築界を代表する作品として未長く語り継がれることであろう。

以上 見学後記 NTT都市開発(株) 吉田信一郎